

平成21年6月15日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008年度
 課題番号：18330159
 研究課題名（和文） 近代日本における教育情報回路としての
 中央・地方教育会の総合的研究
 研究課題名（英文） Study on National and Local Educational Associations as an
 Information Circuit in Modern Japan
 研究代表者
 梶山 雅史（KAJIYAMA MASAFUMI）
 岐阜女子大学・文化創造学部・教授
 研究者番号：60066347

研究成果の概要：

明治初期に全国に設立された教育会は、時代と社会の状況に即して多様な活動を展開し、近代日本の教育を水路づけた中間団体である。本研究においては、明治期、大正期、昭和期という3つの時代区分を設定し、中央（=全国）教育会、地方教育会、植民地における教育会の活動を通時的に分析することにより、これまで部分的に明らかにされてきた教育会の全体像を解明した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
18年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
19年度	3,300,000	990,000	4,290,000
20年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
総計	11,300,000	3,390,000	14,690,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育史

キーワード：近代日本、地方教育会、帝国教育会、教育情報回路、教育団体、教員養成

1. 研究開始当初の背景

明治初期に成立した教育会は、教育雑誌や刊行物発行等による教育情報の交換、教員養成および研修、社会教育等の多様な教育活動を展開した。教育会は、時には専門家集団として、時には圧力団体として、また時には翼賛団体として機能した。こうした教育会の活動内容および機能の多義的性質のゆえに、これまで研究においては、その全体像を把握することができていなかった。

本研究においては、行政と教育現場との中間にあって、多様な活動と機能をはたした教育会の実像を明らかにし、近代日本における

教育の構造を問い直すことを目的として研究に着手した。

本研究を通して、地方分権化の中における地方教育行政のあり方、教師の専門性向上を目指した教員養成研修システムのあり方等の現代的な教育課題に対して、歴史的な視点から貢献することを期した。

2. 研究の目的

明治初期に登場し、昭和の戦時にいたる期間、全府県さらに朝鮮・満州・台湾・樺太・南洋群島にも設立されるに及んだ教育会は、近代日本の歴史において、空間・時間両軸に

において巨大な教育情報回路を形成した。

1872 (明治 5) 年「学制」発布以来、学事諮問会ならびに教育研究会の二系譜から発した教育会は、学務担当吏員、師範学校スタッフ、校長・教員そして地域名望家を構成メンバーとし、各地域の教育事業振興にきわめて大きな作用を及ぼした。教育会は日本教育史上全く新たな組織・システムの造出であった。

教育会は多様な行事・事業を繰り広げ、地域に教育情報を濃密に凝集・循環させ、時事の案件処理にあたり、戦前の教員・教育関係者の価値観と行動様式を水路づけ、さらに地域住民の教育意識形成に大きな作用を及ぼした。それは、日本社会に学校装置を急速に普及定着させ、また社会教育を広汎に推進した注目すべき情報回路であった。1890 年代には広域ブロックの府県聯合教育会さらに中央教育会が組織され、戦時期には地方・中央教育会は「大日本教育会」に一元化され、戦時国策翼賛団体となり、戦時動員への巨大な情報回路として駆動するに至った。

本研究は、教育会の登場から、1948 年の解散に至る全プロセスを射程に入れ、国内のみならず旧植民地まで研究領域を拡大し、教育会が各時代に何をもたらしたか、いかなる機能を果たしたか、教育会の組織・活動実態・機能について総合的研究を推進する。トータルに教育情報回路としての教育会の歴史的意味の解明をめざすことを目的とした。

3. 研究の方法

当初 25 名 (大学院生を含む) の研究者からなる研究体制を組織し、各領域の史料探査・収集、データベース作成、年に 5~6 回の共同研究会を実施した。

平成 18 年は明治期、平成 19 年は大正期、平成 20 年は昭和期を対象とし、研究組織 (地域) は全国、地方、旧植民地とした。

4. 研究成果

主な研究成果は、下記の通り。

- (1) 教育会は行政と教育現場との中間にあつて、行政の策定した教育政策を地方の実態に即して実施するための緩衝弁として重要な機能を担ったこと
- (2) いずれの教育会も雑誌というメディアを活用して、教育に関わるさまざまな情報を環流させていたこと
- (3) 明治から昭和にかけて師範学校出身の正則教員は慢性的に不足しており、これを補うため、地方教育会は変則・速成の教員養成を担ったこと

- (4) 地方教育会は雑誌による情報提供、講演会、研修会等を通して恒常的に教員研修を担っていたこと (この機能は戦後、各地の教育センターに引き継がれる)
- (5) 地方教育会は通俗講演会、青年団体・婦人団体等への協力、図書館開設、展覧会・博覧会開催等広汎な社会教育活動を展開していたこと
- (6) 近代日本の歩みと軌を一にして、教育会は自発的な結社として誕生したが、次第に行政の補完的機能を担い、昭和期には積極的な翼賛団体として機能するに至ったこと

この他、地方教育会は各地の事情に応じて実業補習学校の設立、移民補習学校の設立、教科書の編纂等の多様な活動を展開したが、それらの詳細については、本研究の成果である『近代日本教育会史研究』(学術出版会、2007 年)および『続 近代日本教育会史研究』(2010 年刊行予定)を参照されたい。

教育会組織は地理的には旧植民地 (樺太から南洋諸島まで) を含めた広がりを持ち、組織的には中央—地方—県—郡市—町村という重層的な構造を持っており、さらに職能別の教員団体 (小学校長会や女教員会など) も分化・派生するに至ったため、すべての組織を悉皆的に研究することは不可能である。それゆえ、特に地方教育会研究に関しては、範例的にケースを選び出し研究を遂行する必要がある。また研究の軸としては、教育会の歴史を通じて一貫した重要な機能は教員養成・研修であったと言えるので、教員養成・研修を中心に据えた研究が求められる。これらは、今後の教育会研究の課題となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16 件)

- ① 石島庸男 「77 年前の山形県の教員組合」『教文研会報』第 27 号、2-11 頁、2008 年 10 月 20 日、査読無
- ② 板橋孝幸 「昭和戦前期農村小学校教師による郷土教育の展開 —秋田県由利郡西目村を事例として—」『地方教育史研究』第 27 号、2006 年、1-20 頁、査読有
- ③ 佐藤高樹・板橋孝幸 「大正・昭和戦前期宮城県中田小学校における郷土教育の展開 —村内教育体制とカリキュラム改造構想に着目して—」『東北教育学会研究紀要』第 8 号、2007 年、1-14 頁、査読有

- ④笠間賢二「小学校教員検定に関する基礎的研究」『宮城教育大学紀要』第 40 巻、2006 年、229-243 頁、査読無。
- ⑤笠間賢二「小学校教員検定制度研究の必要性」『日本教育史往来』第 165 号、2006 年 12 月、8-10 頁、査読無
- ⑥笠間賢二「小学校教員無試験検定に関する研究」『宮城教育大学紀要』第 42 巻、2008 年、173-191 頁、査読無
- ⑦坂本紀子「函館商業学校と地域商業の近代化」『地方教育史研究』第 29 号、2008 年、45-64 頁、査読有
- ⑧坂本紀子「明治中期における北海道の中等教育機関設置をめぐる住民要求」『北海道教育大学紀要』教育科学編第 59 巻第 1 号、2008 年、241～250 頁、査読有
- ⑨白石崇人「1880 年代における西村貞の理学観の社会的役割 —大日本学術奨励会構想と大日本教育会改革に注目して—」『科学史研究』第 47 巻No.246、2008 年、65-73 頁。査読有
- ⑩白石崇人「明治 20 年代後半における大日本教育会研究組合の成立」『教育学研究』第 75 巻第 3 号、日本教育学会、2008 年、1-12 頁、査読有
- ⑪白石崇人「日清・日露戦間期における帝国教育会の公徳養成問題 —社会的道德教育のための教材と教員資質」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部第 57 号、2008 年、11-20 頁、査読無
- ⑫清水禎文「地方教育会の成立事情—群馬県における自由民権運動と教育関係者たち—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第 55 集第 1 号、1-13 頁、2006 年。
- ⑬千葉昌弘「地方教育史研究の課題と方法」『日本教育史往来』第 162 号、2006 年 6 月、9-10 頁、査読無
- ⑭前田一男「鈴木源輔における教育観の転生 —大正自由教育から戦後新教育への継承の意味—」『立教大学教育学研究年報』第 51 号、2008 年、53-78 頁、査読無
- ⑮森川輝紀「教育会と教員組合 —教育ガバナンス論の視点から—」『埼玉大学紀要 教育学部』第 57 巻第 2 号、2008 年、57-72 頁、査読無

- ⑯山田恵吾「千葉県学務当局の『自由教育』に対する『支持』と『統制』—1920 年代前半における地方教育行政の基盤の分析を通じて—」『地方教育史研究』第 29 号、89-110 頁、査読有

[学会発表] (計 8 件)

- ①梶山雅史「岐阜県教育会への組織改革論と郡部教育会」教育史学会第 50 回大会コロキウム、2006 年 9 月 17 日、大東文化大学
- ②石島庸男「明治初期の作文教育について」、山形史学研究会、2008 年 10 月 26 日、山形大学
- ③坂本紀子「函館商業学校の開校と独立過程」、全国地方教育史学会第 30 回大会、2007 年 5 月 20 日、名古屋大学
- ④坂本紀子「昭和期北海道連合教育会の活動内容—戦時翼賛団体への変質過程—」、教育史学会第 52 回大会コロキウム、2008 年 9 月 21 日、青山学院大学
- ⑤白石崇人「明治 10 年代後半の大日本教育会における教師像」中国四国教育学会第 60 回大会、2008 年 11 月 30 日、愛媛大学
- ⑥竹内敏晴・森川輝紀「埼玉私立教育会の動向」教育史学会第 50 回大会コロキウム、2006 年 9 月 17 日、大東文化大学
- ⑦谷雅泰「森文相の地方教育会改良論と福島県教育会」教育史学会第 50 回大会コロキウム、2006 年 9 月 17 日、大東文化大学
- ⑧前田一男「敗戦直後、日本教育会の改組・解散過程 —プランゲ文庫から—」教育史学会第 52 回大会コロキウム、2008 年 9 月 21 日、青山学院大学

[図書] (計 3 件)

- ①梶山雅史編著『近代日本教育会史研究』学術出版会、2007 年、全 417 頁
- ②石島庸男『山形県近代教育小史』山形県教育史研究会、2006 年、全 369 頁。
- ③千葉昌弘「地域における教育の伝統と遺産」、秋澤繁・荻慎一郎編『土佐と南海道 (街道の日本史)』吉川弘文館、2006 年、214-220 頁、全 290 頁

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

梶山 雅史 (KAJIYAMA MASAFUMI)
岐阜女子大学・文化創造学部・教授
研究者番号：60066347

(2) 研究分担者

石島 庸男 (ISHIJIMA TSUNEO)
山形大学・名誉教授
研究者番号：90007154

板橋 孝幸 (ITABASHI TAKAYUKI)
福島大学・総合教育センター・准教授
研究者番号：00447210

大迫 章史 (OSAKO AKIFUMI)
仙台白百合女子大学・人間発達学部・講師
研究者番号：60382686

笠間 賢二 (KASAMA KENJI)
宮城教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50161013

軽部 勝一郎 (KARUBE KATSUICHIROU)
熊本学園大学・経済学部・講師
研究者番号：30441893

小山 静子 (KOYAMA SHIZUKO)
京都大学・人間・環境学研究科・教授
研究者番号：40225595

坂本 紀子 (SAKAMOTO NORIKO)
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：40374748

佐藤 幹男 (SATO MIKIO)
仙台大学・体育学部・教授
研究者番号：30142904

清水 禎文 (SHIMIZU YOSHIFUMI)
東北大学・大学院教育学研究科・助教
研究者番号：20235675

白石 崇人 (SHIRAIISHI TAKAHITO)
広島大学・大学院教育学研究科・助教
研究者番号：00512568

新谷 恭明 (SHINYA YASUAKI)
九州大学・人間環境学研究科・教授
研究者番号：10154402

竹内 敏晴 (TAKEUCHI TOSHIHARU)
実践女子短期大学・教授
研究者番号：00413063

谷 雅泰 (TANI MASAYASU)
福島大学・人間発達文化学類・准教授
研究者番号：80261717

千葉 昌弘 (CHIBA MASAHIRO)
北里大学・獣医学部・教授
研究者番号：70048594

前田 一男 (MAEDA KAZUO)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：30192743

森川 輝紀 (MORIKAWA TERUMICHI)
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：20008741

山田 恵吾 (YAMADA KEIGO)
茨城大学・教育学部・准教授
研究者番号：30312804

山谷 幸司 (YAMATANI KOUJI)
仙台大学・体育学部・教授
研究者番号：50200704

渡部 宗助 (WATANABE SOUSUKE)
埼玉工業大学・工学部・教授
研究者番号：40034665

(3) 連携研究者

なし